

音楽 I テスト	日本の伝統音楽		教科書 『高校生の音楽 1』	P.102 日本の伝統音楽 P.106 能の音楽に親しもう P.142 日本における西洋音楽の展開		
	氏名		得点	/50点	評価	

① 日本の伝統音楽について、正しい文章になるように () の中から1つ選び、○で囲みなさい。(各2点=10点)

日本には、成立時期の異なるさまざまな音楽が併存している。その理由の一つとして、それぞれの音楽を享受する社会的グループが異なっていたことが挙げられる。近代になるまでは、雅楽は(武家 貴族)社会で、能楽は(武家 貴族)社会で伝えられ、歌舞伎や文楽は(武家 農民 庶民)の間で楽しまれていた。

日本の伝統音楽には、(笛 声)を使う音楽が圧倒的に多く、楽器のみのものはごく一部である。

また、日本の伝統音楽では、音を聴いて覚え、まねることが重視され、楽器の音を言葉に置き換えて唱える「(声明 唱歌 朗詠)」が活用されている。

② ア～キの日本音楽の主な種目の説明に当てはまる種目の名称と、その成立時期(古代・中世・近世のいずれか)を

それぞれ選び書きなさい。

(各1点=14点)

種目：雅楽 声明 平家 能楽 三曲 歌舞伎 文楽

- ア 地歌、箏曲、胡弓楽、尺八楽の総称で、江戸時代には主に盲人音楽家が演奏した。
- イ 仏教とともに伝わった単旋律の声楽で、仏教儀礼の際に僧侶によって伝えられる。
- ウ 音楽と舞踊が融合した演劇で、江戸時代には幕府の公式行事の際に演じられた。
- エ 平安時代に整理された儀式音楽で、宮中や寺社で用いられた。
- オ 義太夫節を伴奏音楽にした人形劇で、町人文化を背景に発展した。
- カ 『平家物語』を琵琶の伴奏で語る音楽で、琵琶法師によって演奏された。
- キ 演劇と舞踊、さまざまな音楽が一体となった歌舞劇で、町人を中心に流行した。

	種目	成立時期
ア		
イ		
ウ		
エ		
オ		
カ		
キ		

③ 呂中干について、正しい文章になるように () の中から1つ選び、○で囲みなさい。(各2点=6点)

能の見せどころは(シテ ワキ フシ)の舞である。舞の音楽の多くは、笛によって繰り返される「呂中干」という旋律を基本としている。呂中干は(2 3 4)つの短いフレーズからなり、曲や役柄に合わせて(リズム テンポ 音の高さ)を変えたり装飾を加えたりして、さまざまな雰囲気表現し分けている。

④ ア～エに当てはまる能を下から選び書きなさい。

(各2点=8点)

《安宅》 《高砂》 《井筒》 《羽衣》

ア 松の木が老夫婦の姿となって現れ、二人の絆と天下の泰平を祝福する。

イ 天人が「羽衣を返してほしい」と懇願し、美しい舞を舞う。

ウ 旅の僧の夢の中に、在原業平の面影を懐かしむ紀有常の娘が現れる。

エ 弁慶が、主人である義経をわざと打って修羅場を切り抜ける。

ア	
イ	
ウ	
エ	

⑤ 謡と狂言について、それぞれ正しい文章になるように当てはまる言葉を下から選び書き入れなさい。(各2点=12点)

ヨワ吟 カタリ オノマトペ リキ吟 コトバ 長唄

せりふ ホソ吟 フシ 舞 民謡 ツヨ吟 唱歌 面

能の物語は「謡」によって進行していく。謡は、せりふ部分の「()」と旋律的部分の「()」に分けられる。後者には、息を強く出しながら力強く謡う「()」と、旋律を重視して繊細に謡う「()」という2つの発声法があり、役柄や場面に応じて謡い分ける。

狂言はせりふを中心とする演劇だが、歌や()、囃子が入る演目も多く、音や音楽が重要な役割を果たしている。せりふには、多くの()が用いられる。